



新刊案内

ライフサイエンス選書

こうすれば医学情報が伝わる!! わかりやすい文章の書き方ガイド

林 健一 著

■本書執筆のきっかけ

—わかりやすい文章を書く、ということが本書の大きなポイントになっています。本書を執筆するきっかけとなるようなエピソードがあれば教えてください。

どうしたら文章がわかりやすくなるか。このことを考えるようになった最初のきっかけは、小学3年の冬休みにこたつで書いた読書感想文でした。このとき、私は「フランダースの犬」を題材として、悲劇的な結末に対する思いを原稿用紙に綴っていたのですが、たまたま居合わせた父親が文章を読み、こう質問したのです。「このパトラッシュというのは誰だ」。そして、主人公ネロの飼っていた愛犬の名前であることを知ると、こう言いました。「それなら、『ネロの飼っていた犬のパトラッシュが』と書いたらどうだ。そうすれば、この本を読んだことのない人にも意味がわかるようになる」。

後にも先にも父親が宿題を見てくれたのはこのときだけです。したがって、質問に深い意図があったとは思えません。目の前に原稿用紙があったから、それを読み、わからないことを質問した。おそらく、これが真相でしょう。でも、結果的にこれは文章の書き方に関する最初の指導となりました。そして、以降に書く文章に大きな影響を及ぼしました。私は読者を意識するようになったのです。

それから時が流れ、製薬企業に入社した私は医薬品の承認申請資料を作成する仕事に携わりました。この仕事では、非臨床や臨床の各担当者が書いた文章に手を入れ、資料全体をわかりやすくしなければいけないのですが、「○○における△△」といった表現が多く、意味を理解すること自体が容易ではありませんでした。このときに出会ったのが循環器領



A5判・160ページ

定価(本体2,800円+税)

ISBN978-4-89775-327-0 C3047

域のある高名な教授で、この方が「若い医師の書く論文から『おいて』と『おける』を全部削除したい」とおっしゃるのを聞き、なるほどと思いました。確かに、「おいて」や「おける」を削除すると、わかりやすくなったからです。このことが第二のきっかけとなり、私は文章の書き方に関する書籍を読むようになりました。

■メディカルライティングとの出会い

このときに集めた書籍にはよいものがありました。でも、多くの書籍は随筆や評論の文章を題材としており、医学領域で頻繁に使われる「おいて」や「おける」への対処方法を解説したものを見つけることはできませんでした。さらに、各書籍が扱う題材は助詞や接続詞、修飾語を使うときの留意点に限られており、一つの文書を仕上げるまでの留意点を系統的に理解することはできませんでした。このため、もどかしい思いを抱いていたときに出会ったのが「メディカルライティング」という用語で、1990年代が終わろうとする頃には日本の製薬業界にもこの用語が広まりつつありました。

メディカルライティングは医学情報を伝える技術を体系化したもので、紛らわしい専門用語の使い分け方、センテンスの書き方、パラグラフの書き方、書いた文章の見直し方といったように、文書を仕上げる順番に応じて、それぞれの留意点が身につくように講義や演習が構成されています。しかも、題材は医学に関する文章に限定されています。こうした

講義や演習を受けたことによって、これまでに知らなかった技術を修得することができました。なかでも感銘を受けたのが「Essentials of writing biomedical research papers (Mimi Zeiger 著)」という書籍で、数学の公式を扱うようにして文章の書き方を解説している点が新鮮でした。こうしてメディカルライティングに出会ったことが第三のきっかけとなり、医学に関する文章を日本語で書く際の留意点を系統的に整理してみようという意思が芽生えました。その後、論証の基本を解説した野矢茂樹先生や福澤一吉先生の書籍を知るに至り、自分の中で知識を体系化することができました。以上が本書を執筆した経緯です。

■こんな方に読んでいただきたい

—どのような読者を想定して執筆されましたか？

文才がなければよい文章は書けない。このようにおっしゃる方がいます。でも、情報を伝えるための文章を書くのに文才は必要ありません。「アルジャーノンに花束を」のような小説を書くわけではないのです。読者を感動させる必要はどこにもありません。あるいは、格調の高い文章が書けないと悩む方もいます。でも、情報を伝える際に格調の高い文章を書く必要はありません。情報はやさしい文章で書いたほうが伝わりやすいのです。

私たちは情報を伝えるために文章を書きます。したがって、伝えたい情報が読者に伝わることを最終の目標となります。そうであれば、文章の書き方に関する留意点を理解することは決して難しくありま

せん。そして、これらを理解すれば、誰でもわかりやすい文章が書けるようになります。本書が扱ったのはこうした留意点です。プロトコール・医学論文・申請資料といった文書や患者さん向けの資料などを作成する予定があり、文章の書き方にお悩みの方がいらっしゃれば、ぜひ本書を読んでいただきたいと思います。

林 健一 Kenichi Hayashi

アラメディック株式会社 代表取締役
日本メディカルライター協会 評議員
東京大学大学院医学系研究科 非常勤講師

東京大学薬学部卒。
製薬企業で臨床試験の統計解析・新薬開発のプロジェクトリーダー・医薬品の承認申請資料作成業務を担当した後、2007年に開発業務受託機関「アラメディック株式会社」を設立し、代表取締役に就任する。
現在は、医学論文の投稿用原稿やプロトコール・治験総括報告書・承認申請資料などの作成業務を受託している。あわせて、研修の講師として、臨床研究方法論や医薬品開発、メディカルライティングなどに関する講義を製薬企業内で実施している。



日本メディカルライター協会 (JMCA) で講義をする林氏。メディカルライティングの第一人者である林氏の講座は、JMCAでも人気の講座である。

関連書籍



CONSORT, STROBEを理解し、その要求を満たした医学論文を執筆する際の留意点を詳細に解説した内容。あわせて読むことでより理解が深まる！！

ライフサイエンス選書
一流誌にアクセプトされる
医学論文執筆のポイント

林 健一 著

ライフサイエンス出版刊
A5判・136ページ
定価 (本体2,400円+税)
ISBN978-4-89775-297-6 C3047

- 第1章 論文執筆の準備
- 第2章 緒言の書き方
- 第3章 方法の書き方1 —一般的な留意点—
- 第4章 方法の書き方2 —ランダム化比較試験に特有の留意点—
- 第5章 結果の書き方
- 第6章 考察の書き方
- 第7章 抄録の書き方
- 第8章 スタイル